

災害看護専門看護師としてのとりくみ

昭和大学病院

舎利倉幸香

私が災害看護専門看護師（Certified Nurse Specialist 以下、災害看護 CNS）を志したのは東日本大震災の日本 DMAT（災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team）の経験がきっかけでした。未曾有の災害で心と身体の苦しみを抱える被災者の方々や病院や施設内で患者や利用者を守ろうと働く職員の方々を目のあたりにしました。その後、日本赤十字看護大学の災害看護 CNS コースに進学し、災害静穏期における備えの大切さを学修しました。さらに災害中長期の継続的な看護の重要性や世界の防災減災活動と災害看護の水準を学び、支援や受援の在り方について知見を深めることができました。

平時の病院実務において災害看護はあまり身近なものではありません。しかしひとたび災害が起きると周辺の地域住民の方々や患者・職員の被害は甚大なものとなります。そのため災害看護 CNS として職員が病院や地域のハザードをイメージできるような働きかけを心がけ、想定外を想定内にすることで対応力の向上を目指しています。全ての職員が「真剣に備える」ことができるように教育支援や体制整備に力をいれて取り組んでいます。

当院では、総合訓練の他にも 109 の部署（各外来病棟・検査部・清掃・売店・レストランなど）が年間に 1、2 回の部署訓練を実施しています。その中で、部署毎の環境特性や人員などに応じた安全確保や情報共有の工夫、アクションカードの修正などを担当者と共に考えて対策を強化する支援をしています。各部署が自発的に近隣の部署と合同訓練するまでに発展してきました。このような訓練の積み重ねは、多職種で協力し困難な局面を乗り越えられるチーム力を育むことに繋がると考えています。

他領域の専門看護師や認定看護師との連携も大切にしています。外来化学療法センター・分娩室・ICU・透析センターなどの専門看護師や認定看護師に対し、“求められる看護”に“災害時の看護”の視点を共有することで、限られた資源の中でも高度な看護が提供できるよう検討を深めています。BCP（事業継続計画 Business Continuity Plan）に関しても看護の視点を踏まえた対策を整えることが重要となります。今年度は、制限食の患者も摂取できる食事を備蓄することや、限られた人員で食事を配膳する職員の確保について栄養科スタッフと検討を進めて組織へ提案してきました。

災害時は様々な職種や団体との連携が不可欠となります。病院の内側だけでなく外側にも視野を広げて平時から、「真剣に備える」ことを考えていける関係づくりを大切にしていきたいと考えています。